

グローバル教育コンクール入選作品の活用について

グローバル教育コンクールには2000余点の応募がありました。一次審査を通過した作品群はいずれも質が高く、二次審査（最終審査）での入賞作品の選定は難航しました。

こうして入賞した作品は、海外の人々の現実を活写し、未来への啓示に溢れ、また人間としての温もりが感得できるものでした。

いまグローバル化が急速に進展し、社会の多文化化が現実となっています。そうした状況を背景に、21世紀の地球社会に生きる資質・能力、技能をもった人間の育成が希求されています。今回入選した作品群は21世紀の人間形成に有用な教材です。入賞作品を教育の場で活用するための手立てについて記してみます。

1 文化理解

文化をいかに規定するかについては、学問領域や科学方法論上の違いなどによって様々に異なる見解があり、またそれらについてのすぐれた整理・検討もなされているが、大まかに文化規定の見取り図を描くとすれば、文化をそれぞれの時代、社会における知的・精神的活動の到達点である上位文化と、人々の生活様式や生活パターンそのもの、即ち生活・生業の文化があると考えられます。

生活・生業文化とは、衣食住や言語・制度・民族性などを含む、庶民の日常から作られてきた広範囲な文化をさします。

グローバル教育コンクールの入選作品には、生活・生業文化を知る、有効な作品が多数あります。

日本の生活・生業文化と比較したり、日本人からみて違和感をもつ事項の背景にある意味を考えさせると、深い文化理解ができるでしょう。

2 人間理解

人間は、その起源をたどれば共通です。また、民族・人種の差異を越え、よりよい生き方や幸福を願ったり、弱者に手助けしようとしたりする心情を持つことなど、どの人間としての共通性があります。一方、個々の人間は各自が個性をもち、他との関わりをもちながら、自分なりの多様な生き方をしています。人間理解にはそうした人類としての共通性と多様性を認識しておくことが大切です。

今回は、一見貧しく見える人々が、仲間と共に生き生きと生活していることを示す作品等、厳しい環境を逞しく生き抜く生活感に溢れた作品群が多数入選しています。これらを活用することにより、生きる意味、幸福とは何かについて日本の子どもたちにも考えさせたいものです。

3 世界の現実理解

世界の現実には以下の5点に類別されるでしょう。資本、人・情報などによる「世界の相互依存関係の拡大」、その解決なくして人類の生存さえ危ぶまれる資源・人口・地球環境・食糧・戦争等の国際紛争など「人類の共通課題」、国連など公的国際機構、民間の国際機構の活動に具体的には代表される「世界の協調・協力」、公民を問わず、国際組織の活動が目指す「平和の維持」です。

また、世界の現実には、人間の価値観・生き方から派生する、冷厳な現実があります。人種蔑視、戦争にみられる力の論理や非人道的行為、日常世界における、差別・偏見・利己的な自己主張等々、おぞましいこうしたことも、「世界の冷厳な現実」として加えます。

グローバル教育コンクールには、こうした世界の現実を活写した作品が数多く応募されています。入選作品にもそうした優れた作品があります。

これらを活用することにより、教室の学習と世界をつなぐことができます。また、地球社会の一員としての自覚を実感として高めていくことができます。

4 未来指向性

持続可能で希望ある未来の創造を目指す、持続可能な発展のための教育(ESD Education for Sustainable Development)」は、今の世代にとってだけでなく、次の世代にとってもよい新たな「公共」をつくる発想を基調に、持続可能な未来と社会の構築のために、主体的に参加する人間の育成をめざした教育です。

ESDは、人間の尊厳、社会的・経済的公平さ、将来世代に対する責任、多様性の尊重などが実現できる資質・能力をもった人間の育成を指向しています。

本コンクールの入賞作品は、希望ある未来社会の担い手を育成するための有用な資料となります。多様な文化・価値観を持つ人々、文化や生き方に違いはあるが幸福になりたいとの思いは共通な人々と連携し、地球的課題に解決に参加・協働していくための資質・能力、技能を育む学習にインパクトある手がかりを与えます。

本コンクールのレポート部門には、具体的な実践が記された優れた入選作品があります。これらをも参考にしつつ、全国各地でグローバル教育コンクールの作品を有効に活用した実践が展開されることを願ってやみません。